

北海道人
農村大學
白三郎
友
詩
史





大坂市西區南堀江通一丁目

勝存忠長衛

年上り口に朝来菜
其方と云ふは伊定任、
焼く一元気旺重能也
山妻待集水の祝宴
赤飯と子供(四一)六生
例の生一奉 親族より
其の爲め好如也心
賑々甚し云はん前し
か生を先づ人備の火
前と説く一奉和合
か運の陰をと朝し
乾金也又か大取何
款を取扱しとの舞足
の踏む所を不也

かまの陰を翹し

乾衣女又か大破何

歡喜物こゝの舞

の踏む所をわら

を嫁はを針さし

炮るさし

丸厄田満茶々

の事と

まじやうし百食し

一才踊り出し家族

一月抱腹廻倒

かまも思ふん吹く

山し子社ま

楽先づを甘茶也

本の上流お節村

土とん法教竹の物

山し子能

楽先づ甘味

本の上流

士とる

多致大

士島

際上

道ちあり

なり

成能

上子

定去大

量とあり

天意の

成子

上子 百 五 五

定去大混教山妻大

重と知り指揮家令

天気ののわし七つ下心

州一と書裁整理

師付と設取し

一古と違書と時之

平と酌量し昆名に

~~心~~ 実家と乞ふ

先と去ととゆま

三身不踏車

少因老之

と頼り物此の書物心延

副此の物飾持上り

成子

一古為進者之悔之
乎之的也其昆者以
以情 若家之氣子
先之者也中其
三身不 踏 耳

少因老之
行矣

少願之動其以書物也延
引此日物之歸時也
流中為進也